

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171100191), 法人名 (メリーライフ株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家千歳 スイセン), 所在地 (千歳市若草1丁目18-2 TEL 0123-28-5184), 自己評価作成日 (令和3年6月2日), 評価結果市町村受理日 (令和3年9月1日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願い、信じ合える、希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるよう配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事、地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた昔の自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、入居者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kan=true&JigyosyoCd=0171100191-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0171100191-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年7月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and evaluations.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者やリーダーはユニット会議や申し送りの場などを利用して理念の確認や理念を踏まえた取り組みの共有に努めている。また、事例検討などの折に触れ理念を解釈した指導や解決方法を伝えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	管理者が中心となり近隣の介護事業所や社会資源との関係構築に努めている。現在はコロナ禍を踏まえ対面ではなくメールやオンライン、FAXなどを利用し、集合は控えながら工夫して取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍ではオンラインや電話などの通信機器を利用して関係の継続に努めている。突発的な相談や見学希望などもあり、認知症高齢者の生活状況やグループホームの強みなど発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、管理者が中心となり各関係者に対し事前連絡や、事前確認を行っており、推進会議開催後にも議事録の郵送やメールやFAXで事後報告を行い、情報共有の工夫に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が中心となって、保護課や包括支援センターなどと連携している。コロナ禍ではマスクの配布や消毒液の在庫確認などあり、その際に認知症高齢者の感染対策が難しい現状など報告している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1度身体拘束廃止に向けた会議を開催しており、内外の研修にも適時参加できる体制を整えている。会議参加者以外にも伝達研修を行っており、事例検討や会議などにおいても身体拘束や虐待に繋がらないよう指針や法令を解釈して考えるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍では内外の研修にはオンラインで参加し法令の理解や虐待に繋がる要因、ストレスマネジメントなどを学習する機会がある。また、入居者自身からの報告やサインにも注視し、小さな事でも職員同士で報告や話し合える環境がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に入居者が制度を利用していた・利用する場合に学習する機会が多い。学んだことは主に管理者より入居者や家族へ提案したり、助言する、あるいは制度を利用できる窓口を紹介するなど取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が窓口となり、出来るだけ丁寧な説明に努めている。介護保険更新時などにも説明の上再同意をおこなっており、本人の意向確認や自己決定などについても慎重に配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者に限らず面会時や定期的な電話連絡、受診後の結果報告などの折に触れ入居者やその代弁者である家族から意見・要望を確認している。意見を気軽に、話しやすい環境づくりに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に管理者やリーダーに対しざっばらんな意見が集まる傾向となっている。意見は本会議や報告書などで随時報告されており、本社で精査された後、必要と判断された事柄については反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	まずはリーダーに報告が集まり、その後管理者から本社へ段階を踏んで伝達と報告される環境となっている。各職員の勤務日数や勤務希望日、休日希望などは要望通りに反映されており、雇用状態についても資格取得時などに反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は個々の職員の有する能力や資格などを考慮し内外の研修を紹介したり参加を促している。またリーダーは各職員の能力に合わせて次のステップに繋がる取り組みを提供しており働きながら学べる環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に管理者が中心となってホームが加盟している団体の研修会や懇親会などに参加している。事業所内の悩みや工夫など相談し合える関係づくりの構築に努めている。現在はコロナ禍でありオンラインや電話での連絡が主流となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の訪問や面談の段階からアセスメントを行っており、一度の面談に限らず本人以外の立ち合いも含め、出来るだけ回数を重ねながら背景にある不安や要望、認知症の状況などの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を検討する初回の見学や面談の段階からアセスメントを行っており、不安や疑問が残る場合には、気軽な電話のやり取りだけでなく再度話し合いの場や見学の場面を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の希望に沿って支援内容を検討し、サービスを利用していた以前のケアプランも参考にしたり、ケアマネジャーとも協働して柔軟に支援内容を変更するなど臨機応変に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事・料理・掃除など日常生活における活動の中で、昔の風習や知恵などを入居者から学ぶ機会を大切にしている。入居者から知り得た知識を元に、行事の立案や余暇活動の提供を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも面会時やケアプラン更新時などで報告するよう努めている。現在、コロナ禍を踏まえオンラインによる気軽な連絡を行っており、画像や動画を添付してよりわかりやすい状況報告の工夫に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と家族によっては会ってほしくない人、行ってほしくない場所など捉え方が様々である。逆に来てほしくないという先方の意向がある場合もあり、本人たちの意向を尊重しながら支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の意向を踏まえ、職員が一方的に関係性を決めつけないよう配慮している。入居者同士の言動を客観的に観察し、場合によっては職員が適切に橋渡しすることでお互いが存在を認め合うような環境づくりに努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽な連絡があり、ホームで使用できる物品の寄付や、ボランティアとしての活動協力など継続した付き合いが出来ている。しかし、コロナ禍に伴い連絡は希薄となっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を通して一人ひとりの希望や意向を気軽に表出できるような場面作りを行っており、小さなサインや非言語の情報なども大切にしている。家族から情報などもヒントとして役立っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や馴染みの暮らし方、生活習慣などの情報を集め、自宅などで暮らしていた頃の状況をホームで可能な限り継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りノートを活用したり、職員同士で短い時間口頭で確認作業を行うなど情報共有を工夫し、一人ひとりの生活リズムを把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員による日々の観察を適時検討し、職員の主観ではなく本人を主体としてプラン作成に努めている。評価と立案では事前に家族から意見や要望を確認しており、主治医や薬剤師からのアドバイスも反映するよう考慮している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の入居者の変化やケアの実践内容、経過をできるだけ具体的に記録するよう努めており、職員間で情報を共有出来るよう、申し送りノートやメモなども活用して情報を取りこぼさないよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域における既存のネットワークや社会資源を活用し、適時包括支援センターや市の窓口にも相談しており、広報や介護新聞などからも情報を得て個々のニーズに合わせた支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	千歳市に限らず周辺の市町村や、各入居者の生まれ育った地域にも目を向け、入居者個々の状況やニーズに合わせて支援できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療以外の受診が必要な時には、事業所の保有する介護車輛を手配したり、事前情報をFAXしたり、主治医の診療情報提供書の作成を依頼するなどスムーズな受診を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の定期訪問時には気軽に相談や確認し合える関係が出来ており、情報は書面で残している。また、主に管理者が窓口となって電話やFAXなどで連絡し、医師への伝達や処置について依頼や相談をする場面がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症高齢者の特性や普段の様子、介助方法などを口頭や書面で伝達しており、安心して治療が受けられるよう支援している。コロナ禍における面会制限を踏まえ医療相談員との連携やムンテラなどの参加で早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	デリケートな話題であっても折に触れ家族や居居者に対し意向確認を行おう務めている。ホームで看取りを希望する場合には医師を交え今後の診療方針や予想される出来事など話し合う機会を設けており、方針の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時ファイルやマニュアルを身近な場所に準備しており日頃から容易に確認できる環境を作っている。個々の状況に合わせた、予想されるリスクについて話し合う場面が適時ある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍であることを踏まえながら、消防と連携し定期的に火災や災害に対する自主避難訓練・防災訓練を実施している。その際には避難場所や、自家発電機、備蓄品の確認作業も行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合わせた声量や言葉遣いに留意しており、特に入浴時・排泄時にはプライバシーに配慮した声かけを行うよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で入居者一人ひとりとコミュニケーションを図りアセスメントを行っており、自己決定が難しい方は、日頃の表情や反応などを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調・状況に合わせた声かけで希望や要望を確認し、自ら意思を伝えることが難しい方は家族と相談・バックグラウンドなどから、その人らしく生活できるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣類を選んだり、その人らしい趣向や好み、馴染みの物、着心地などに配慮し支援している。選ぶことが難しい方はバックグラウンドなどを参考にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ入居者の希望を事前に確認してからその日の献立作りを行っている。刻みやトミ剤を使用した食事提供についても見た目や味を大切に、個々に合わせて楽しめるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や血液検査結果などを踏まえ、一人ひとりに適した量を提供できるよう努めている。また、医療機関とも連携し経腸栄養剤の処方や市販の栄養補助食品の活用など工夫して実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、状況に合わせて適時介助している。スポンジブラシや洗口液、マウスペーパーなどの介護用品も活用し、口腔内の衛生保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導やパット交換を行っている。自力でのトイレ利用が困難な方に対しても職員2名でトイレへ誘導し腹圧を支援するなど出来るだけオムツに頼らない支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、飲食の摂取状況や活動量など踏まえ適時下剤調整を行っている。医師や薬剤師と連携し個々に合わせた下剤処方があり、都度使用方法や便秘について学習する機会がある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や順番は入居者の希望を取り入れ、清潔保持以外にもコミュニケーションの場面として大切にしている。拒否が多い方については無理強いとならないように配慮し、場合によっては延期や清拭で代替とする時もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの様子や体調に合わせて、休息時間を設けている。日中に外出や余暇活動等の活動を多く取り入れ、出来るだけ夜間の安眠に繋がるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導を導入し、訪問診療時の同行や薬剤管理状況について適時助言がある。服薬支援は法人内で取り決めた基本事項を厳守し誤薬予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の意欲を引き出したり、喜んで参加できるような働きかけを大切にしており、個々の能力に合わせて、職員の押し付けにならないよう配慮して実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出は自粛しているため、ホーム駐車場への散歩や、ホーム周辺の花を見に行く機会などを大切にしている。冬季間もホール内での歩行訓練や軽運動などを行っており外出の代替となるような活動を意識して取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1階事務所内の金庫でお小遣いを管理しており、どうしても自身で管理したい方は家族と相談の上、数千円ほど所持している方もいる。買い物・行事・受診時などで自由に使えることを伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍に伴いオンラインによる通話や動画、画像の送受信といったやり取りが増えた。職員が介入し電話を使ったり、手紙や葉書きを作成する場面もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や職員の声量などに配慮し、居心地の良い環境作りに努めている。コロナ禍に伴い換気や温湿度にも留意しており、入居者が寒がったり、暑すぎないように配慮している。特定の入居者の希望に沿うのではなく9人のバランスを考えた環境整備に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人ひとりに安心できる居場所があり、生活リズムや状況に合わせてゆっくり寛ぐことが出来るよう、ソファーやテーブルなどの配置に気を付けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から家族と相談し馴染みの家具を持ち込んだり、本人のこだわりの配置になるよう支援している。入居後も本人の希望や心身状況に合わせて自宅から取り寄せたり、希望に準ずる物品を用意するなど居心地が良くなる環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部など環境整備を行う際にも一度に仕様を大きく変えず、少しずつ様子を見ながら変更し、入居者の能力が継続して発揮できるよう配慮して自立支援に繋がる環境づくりに努めている。		